

平成 29 年度地域課題研究助成の報告

1. 研究課題名

「NICU におけるきょうだい面会」が家族形成にもたらす影響に対する母親の認識

2. 研究代表者及び所属

庄司なおみ 新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院

3. 研究メンバー

庄司なおみ¹⁾ 成田恵¹⁾ 高島葉子²⁾ 和田雅樹¹⁾

1) 新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 2) 新潟県立看護大学

4. 学内責任者

新潟県立看護大学 高島葉子

5. 研究経費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額(円)	37,138	0	29,607	28,255	95,000

6. 研究の概要

本研究は、NICU 入院児に対してきょうだい面会を行った上の子の変化が家族形成にもたらす影響を母親がどのように認識したかを明らかにし、きょうだい面会のあり方や **Family Centered Care** に役立てることを目的とした。本研究は質的記述的方法で行い、同意が得られた母親 3 名を対象に、半構成的面接を行った。面接で得られたデータを逐語録に起こしコードを集積し、サブカテゴリー、カテゴリーとしてまとめ分析した結果、10 のカテゴリーが見いだされた。

母親たちは、きょうだい面会を意識する前から、上の子に対し【生まれる前から下の子の存在の意識づけ】【下の子に面会に行く時の気づかい】を行っていた。【きょうだいの絆を深めたい】ことが面会の動機としてあげられ、面会には【上の子の心と身体の準備が必要】と考えていた。実際に面会すると、【上の子の反応を確認できた】【よろこぶ上の子を見て幸せを感じられた】【成長した上の子に支えられた】【心配していた赤ちゃん返りがなかった】【退院後の下の子の受け入れに繋がった】【上の子の成長が家族をひとつにしてくれた】と母親は認識していた。きょうだい面会が家族形成にもたらす影響について母親からは、上の子の成長を通して認識していることが語られた。母親は、きょうだい面会は上の子の中で下の子の存在を大切なものとし、上の子の成長を促し、その成長が新しい家族を迎え入れ、家族をひとつにしてくれたと認識していることが示唆された。

7. 今後の学会発表の予定

- ・有 (日本母性衛生学会)